

公共FMシンポジウム

地方小都市における
公共施設等総合管理計画公共施設等総合管理計画の
取り組みについて

公共施設FM研究部会 部会長

安藤 秀徳 あそひでのり

東京美装興業株式会社



各自治体では、公共施設等総合管理計画を提出した。今後は公共施設等総合管理計画をベースに実行計画を立てて実行していくことになるが、策定された計画の内容を見ると、施設の総量削減を主眼に置いた長寿命化計画と、施設の総量の削減を主眼に置いた計画の2つのタイプが見られる。

これらの手法を基に実行を行っていく上で重要と思われることとしては

- ①まちづくりとPRE、CREを連動させた計画(PPP)に
- ②維持管理運営から経営的発想への転換
- ③市民・住民の声を聞く、市民・住民会、ワークショップ等の開催
- ④地元でできることから段階的に実行する

また、各地で行われつつある公共施設マネジメントの実施事例等を調査することも重要と思われる。

今回は地方小都市である群馬県沼田市におけるFMの取り組みについて講演を行った。

まとめ

- ①公共施設は市民生活を支える施設であり、今後のあり方

は市民が主体となり議論すべき

- ②公共施設はまちづくりの一環で考えるべきである「人口減少→公共施設の統廃合」という単純な考えはダメ「公共施設統廃合→生活が不便→人口減少」の悪循環になる
- ③手を加えながら長く使い続ける(公共施設は地域のシンボル、拠点にする)

沼田市における
FMの取り組み

ゲストスピーカー

戸部 隆之 とべたかゆき

沼田市



群馬県沼田市は人口49,012人(2017年12月末)、職員数415人の地方都市であり、施設数は341施設、延床面積約29,700㎡所有している。

築年別延床面積の割合は、築30年以上、2016年度44.1%。さらに20年後は95.9%にもなり、今後40年間施設総量の削減目標40%とし、対策・実行を行っていく計画である。

これらの対策を実現す

計画期間	平成29(2017)年度～68(2026)年度までの40年間
基本理念	「新しい公共施設のかたちを未来へつなげよう」
削減目標	40%
基本方針	方針1:施設の長期活用 方針2:施設の機能や規模の最適化 方針3:ライフサイクルコスト(LCC)の削減と更新投資の平準化

るにあたり、重要なポイント、先進事例はすでに出ている。いかに地方小都市において実行するか、いかに地方小都市に還元できるか（ただ事例を真似しただけでは上手くいかない）。

海外事例に学ぶ 道路維持管理

インフラマネジメント研究部会
幸野 茂 こうのしげる
株式会社ガイアート



インフラマネジメント研究部会
渡邊 大介 わたなべ だいすけ
株式会社ガイアート



国が示した点検要領に基づく橋梁等の点検が進んでいる中、市町村道の多くは巡回パトロールすら行われていない状況にあたり、橋梁の5年に1度の定期点検費用の確保とその緊急補修に追われる自治体の対症療法の実態が浮き彫りになった。当研究部会が研究している公物管理者と民間維持工事受託者の各々のPDCAサイクルの両輪がうまく回る予防保全型の理想的な官民連携のメンテナンス(図表2)にはほど遠い状況にあると言える。

このような状況下、香港のMOM*1事例とアメリカのインフラ事情にフォーカスし、日本が目指すべきメンテナンスについて考察した。

香港では、日本で言う維持工事に上手に予防保全の考え方が組み込まれている。具体的には、香港で主流のPPP

方式の一種である6年間のMOM契約やM&M*2契約において、日常点検と補修作業を請負者に性能規定型で義務づけ、発見した欠陥は、性能規定で要求された日時以内に補修を求める契約となっている。香港式MOM契約の利点は、受託者が自らの責において点検・補修する予防保全型のメンテナンスサイクルがうまく回っている点にある。

世界一の道路延長を持つアメリカでは、主要な道路のほぼすべてを州政府が管理しており、管理予算も膨大なため、戦略的な手を打ちやすい構造になっていて、情報公開についても積極的である。

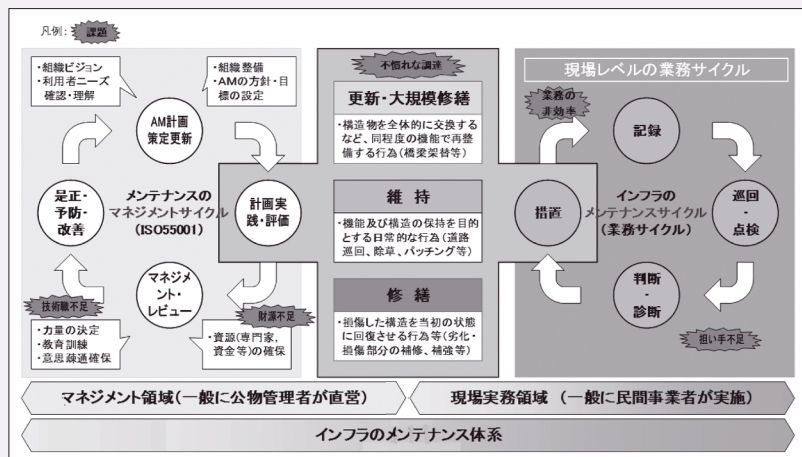
アメリカでは、世界中で使われている高性能な路面性状点検車で点検を行っており、膨大なデータを管理し、そのデータをホームページ等で公開している。公開内容は道路のコンディションや財務状況など多岐にわたる。評価項目は州によって差があるがバージニア州で10項目、ペンシルバニア州で15項目と、細かく評価されている。

取得したデータは信頼あるペーパメント・マネジメント・システムのソフトウェアでライフサイクルコストの算出や、戦略的投資計画を行っている。

渋滞を起因とする社会コストや、道路損傷を起因とするドライバーの損失額など、ネガティブな情報が毎年大きく報道されている。たとえばニューヨーク市では、都市全体で1年間に16.9億ドルが渋滞のために無駄になっており、ドライバー1人当たり2,533ドルが無駄になっているため、なぜ道路整備にもっと金をかけないのだという世論が生まれる。

このように、データを細かく取り戦略的投資計画を行ったうえで、たとえネガティブな情報であろうとも積極的に情報公開をするというのはわが国も見習うべきところなのではないかと考える。

*1 MOM ; Management, Operation and Maintenance
*2 M&M ; Management and maintenance



* 2015年8月JFMAインフラマネジメント懇話会『インフラマネジメント 懇話会レポート』より